

本冊子の活用にあたって

本冊子は社会教育分野における人権教育を行う指導者のための資料として作成しました。
以下を参考にし、御活用ください。

● 内容

この冊子は、話を聞くだけではなく参加者同士が「ワーク」を通して語り合い、人権問題を主体的に学ぶ参加型の学習プログラムとなっています。それぞれの「ワーク」は、身近な生活に見られるエピソードを人権の視点で捉え直し、「気づき」「深め」「行動」へつなげるものとなっています。

それぞれの「ワーク」を活用していただくとともに、学習者の状況や地域の学習課題を踏まえ、工夫を凝らしてお互いの学びを深めてください。

● 構成

この冊子は、Ⅰ 地域で人権教育を進めるみなさんへ、Ⅱ 豊かな学びをつくるために、Ⅲ 社会教育関係団体等における実践事例、Ⅳ 資料等の4部から構成されています。

特にⅡには、各人権問題別のワークシート活用および活用例・解説が記載されておりますので、印刷、もしくは滋賀県学習情報提供システム「におねっと」よりダウンロードして御活用ください。

● 進め方 ～ファシリテーターの方へ（「ファシリテーターの役割」は本冊子P.3をご覧ください）～

① 目的

参加者とともに何を考え、何を学ぶのか、学習の目標やねらいを確認しましょう。

② 参加者の把握

参加者のニーズ（要望）を把握することが大切です。事前にアンケートなどを実施してもよいでしょう。

③ 会場

参加者の倍程度の人数が収容できる広さが必要です。できれば、床が平面で机と椅子が移動できる会場にしましょう。

④ 時間配分

「気づき」から「行動」につながる流れと組立てを考慮して、余裕を持った時間配分を決めましょう。

⑤ 学習プログラムの確認

プログラムの流れと組立て、手法や教材、時間配分、配布物や準備物などできるだけ詳細に学習プログラムを確認しましょう。具体的な流れについては、「学習会の流れ」「解説編」を参考にしてください。

⑥ 全体の流れのシミュレーション

学習プログラムに基づいて、頭の中で全体の流れをイメージして確認しましょう。

⑦ テキストの提示方法

見開きにワークシート書き込み欄、資料、データなどを掲載しています。そのまま印刷して使うことが可能です。内容によっては部分ごとに提示することが効果的な場合もありますので、学習の場面に応じて工夫して使用しましょう。

⑧ 学習の形態

話し合いやワーク等の活動が効果的に行えるグループの人数のめやすは4～6人です。あらかじめグループ分けをしておいてもよいですし、アイスブレイキング（P.37）を行う中で、グループを編成することも可能です。参加者の状況や学習のねらい等に応じて編成しましょう。

⑨ 準備物

参加者人数、使用する用具の確認を行い、準備物は少し多めに用意しましょう。日頃から人権に関する情報を集めておくことがプログラムの組立てに有効です。

● 約束事（学習を始める前に全員参加で確認しましょう）

参加：活動に積極的に参加しましょう

- 参加者の話し合いで作っていく学習会です。一人ひとりが積極的に参加するよう心がけましょう。

尊重：互いの考えや感じ方を尊重しましょう

- 相手の意見をしっかり聴きましょう。また、一人で長く話し過ぎないようにしましょう。
- 発言は強制ではありません。聴いているだけの参加も認めましょう。

守秘：話し合い活動で知った参加者の個人情報を持ち帰らないようにしましょう

- 活動の中で知った参加者の個人に関わる話の内容は、他の場所で他人に話したりしないようにしましょう。

社会教育分野における 人権教育で取り組みたい 3つの柱

（「人権教育推進プラン」より）

身近な生活の
中にある問題に
気づくこと

自分の問題として
とらえ行動に
つなげること

能力や可能性を
発揮できる社会
をつくること

学習の流れ(60分)		支援のポイント
I 15分	1 趣旨説明 アイスブレーキング グループ分け	○ テーマ・学習会の目的を確認します。 →P.29～「各人権問題別ワークシート活用例」参照 ○ 参加者の緊張をほぐし、場の雰囲気を和やかにします。 →P.43「アイスブレーキングの手法」参照 ○ 話し合い活動が行いやすい人数（4～6人）でグループを作ります。 ○ ワークに入る前に約束事（「参加」「尊重」「守秘」）を確認します。
	2 約束事の確認	
II 30分	3 ワークシートによる活動 【ワークⅠ】 どう思いますか？（気づく） 【ワークⅡ】 考えてみましょう！（深める） 【ワークⅢ】 話し合いましょう できること！（行動する）	○ ワークシートを配布して、【ワークⅠ～Ⅲ】の活動を進めます。 →解説編 P.29～「2 進め方(ワークシート活用例)」を参照 ・ イラスト等を参考にして、日常生活にある人権問題について率直な意見を語り合います。 ・ 資料等を参考にして、各人権問題について語り合い、考えを深めます。 ・ 地域で今まで取り組んできたこと、これから取り組みそうなことを語り合います。
	4 各グループの発表 5 まとめ・ふりかえり	
III 15分		○ グループで出てきた内容を全体で交流し、できるだけ多くの考えに接するようにします。 ○ 参加者の「気づき」や意見を聞き、学習の整理、共有の場とします。最後に、互いにお礼を言って活動を終えます。